

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第27週(7/4-7/10)の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		27週	26週	25週	24週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	7/4-7/10	6/27-7/3	6/20-6/26	6/13-6/19	6/27-7/3
			27週	26週	25週	24週	26週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	2 0.11	0 0.00	0 0.00	7 0.05
	咽頭結膜熱		8 0.44	7 0.39	13 0.72	18 1.00	71 0.53
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		66 3.67	85 4.72	70 3.89	67 3.72	578 4.28
	感染性胃腸炎		95 5.28	111 6.17	141 7.83	164 9.11	645 4.78
	水痘		11 0.61	7 0.39	23 1.28	16 0.89	77 0.57
	手足口病		23 1.28	18 1.00	4 0.22	1 0.06	128 0.95
	伝染性紅斑		6 0.33	6 0.33	5 0.28	7 0.39	41 0.30
	突発性発しん		17 0.94	24 1.33	16 0.89	14 0.78	99 0.73
	百日咳		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	ヘルパンギーナ	○	51 2.83	34 1.89	12 0.67	4 0.22	235 1.74
	流行性耳下腺炎		13 0.72	6 0.33	7 0.39	12 0.67	147 1.09
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.02
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	○	13 2.60	11 2.20	9 1.80	7 1.40	29 0.83
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.67
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	病原体の検出	ジアルジア症	女性	80歳代	病原体の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査	梅毒	男性	80歳代	血清抗体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査等	梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出
劇症型レンサ球菌感染症	男性	90歳代	病原体の検出	-	-	-	-

・第27週は、結核4件(133)、劇症型レンサ球菌感染症1件(5)、ジアルジア症1件(1)、梅毒3件(18)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第27週のコメント

＜ヘルパンギーナ＞ 第24週から連続して増加しており、2.83となった。過去10年の同時期と比べるとやや少なめ。
 ＜流行性角結膜炎＞ 前週から更に増加し2.60となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。

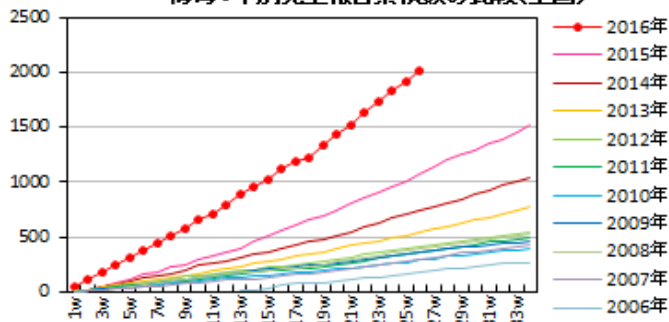
■ トピック ■

<梅毒>

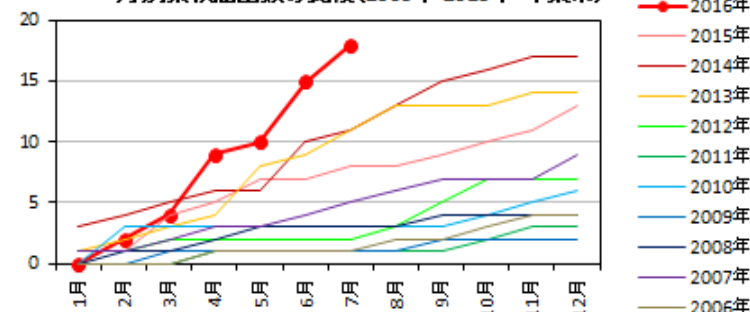
全国レベルの第26週の累積届出数は2019件と、過去10年と比べて最多であった2015年の81.5%に既に達しており、過去9年の同時期と比べると約2倍～7倍で最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県順に多く報告されています。千葉県は全国第7位となっています。千葉市は第27週に3件の届出があり、累積届出数は18件となり過去10年と比べて既に最多となりました。

累積報告数(n=18)の内、性別は男女同数で、年齢階級別では20歳代(33.3%:6名)、10歳代及び80歳代(共に16.7%:3名)、40歳代及び50歳代(共に11.1%:2名)の順に多くなっています。また、病型は早期顕症梅毒(Ⅱ期)が38.9%(7名)、早期顕症梅毒(Ⅰ期)及び無症状が27.8%(5名)、晩期顕症梅毒が5.6%(1名)で、感染経路は性的接触(83.3%:15名)、輸血(5.6%:1名)、不明(11.1%:2名)となっており、性的接触の内、異性間が60.0%(9名)、同性間が6.7%(1名)、不明が33.3%(5名)となっています。

(人数) 梅毒:年別発生報告累積数の比較(全国)



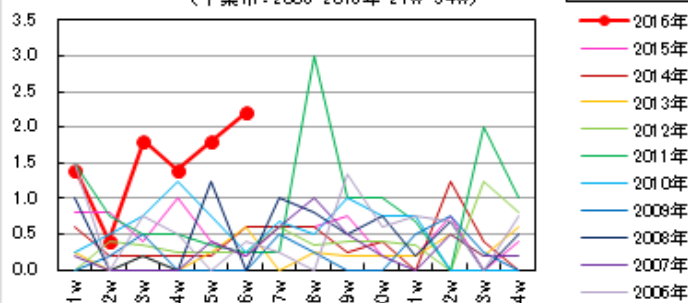
(件数) 月別累積届出数の比較(2006年-2016年:千葉市)



<流行性角結膜炎>

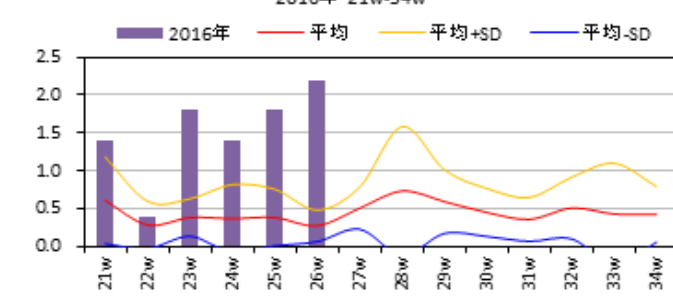
全国レベルの第26週は過去9年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では、鹿児島県、神奈川県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干多めとなっています。千葉市の第27週は前週から増加し2.60となり、過去10年の同時期と比べると依然として最多のままとなっています。区別の発生状況は、美浜区(7.0/定点)で流行発生警報継続基準値(1.0/定点)を上回り最多で、同区の40歳代で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第27週までの累積報告数(n=123)によると、性別では男性が47.2%(58名)、女性が52.8%(65名)で、年齢階級別では30歳代(26.0%:32名)、40歳代(16.3%:20名)、50歳代(8.1%:10名)の順に多くなっています。

各シーズンの定点当たりの報告数
(千葉市:2006-2016年 21w-34w)

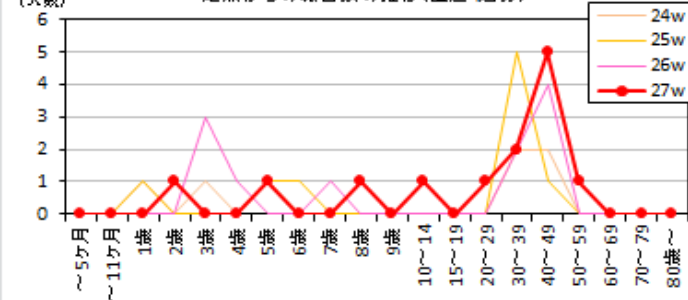


警報値: 8.0

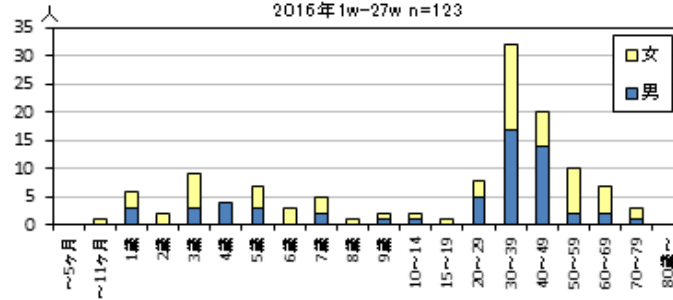
過去10年間との比較
2016年 21w-34w



(人数) 定点からの報告数の推移(直近4週分)



定点からの報告数
2016年 1w-27w n=123



<ヘルパンギーナ>

全国レベルの第26週は過去9年の同時期と比べると平均レベルとなっています。都道府県別では、愛媛県、徳島県、和歌山県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市は第24週から連続して増加しており、第27週は前週から増加し2.83となりました。過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。区別の発生状況は、緑区(5.75/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第27週までの累積報告数(n=112)によると、性別では男性が54.5%(61名)、女性が45.5%(51名)で、年齢階級別では1歳(33.9%:38名)、2歳(19.6%:22名)、3歳(12.5%:14名)の順に多くなっています。

